

『季節の宅配便』

Society5.0の実現に一步前進！

スマート農業推進の第一弾として、新規導入したGPS機能搭載田植機を用いたハイブリッド米(多収米)の田植えを6月15日(月曜日)に実施しました。



GPS機能搭載田植機(左)と田植えの様子(右)

湯浅農場では、**Society5.0**が目指す未来社会の実現に向けて、**ICT**を活用した作業の自動化・省力化と高品質生産を同時に実現する**スマート農業の推進**を目指しています。その第一弾として、GPS機能を搭載した田植機(クボタ社製、NW6S)を新規導入し田植えを行いました。

本機を使用することによって、GPSからの位置情報に基づいた**直進時自動操舵**等の機能により、作業者の技術に頼らず、真っ直ぐ田植えができるようになります。それに加え、GPS位置情報による**施肥の均一化**、**田植えと同時に農薬散布を行うことが可能**となり、**作業が大幅に省力化**されます。

省力化により節約された時間は植物の生育観察や他の農作業に充てることができ、**農業の質を高める**ことにつながります。また、作物の生育状況や栽培管理データを集積することで、ICTを活用したスマート農業の実現にも貢献できるようになります。Society5.0の実現に向けて、**メーカーとともに、農場の実験ほ場を活用した産学連携も視野**に入れ、人および地球に優しい持続可能な次世代農業の形を追い求めていきます。